

平成28年度学校自己評価 1学期

中津市立三郷小学校

学校の教育目標	豊かな心と確かな学力を身につけ、たくましく生きる山国の子どもの育成
重点目標	○基礎基本の定着と活学力の育成 ○あいさつができる子の育成 ○進んで体を動かす子の育成

評価判断基準	
A	達成率90～100%
B	達成率70～89%
C	達成率60～69%
D	達成率60%未満

重点目標	達成指標	達成指標 評価	重点的取組	取組指標	項目 評価	取組 指標 評価	総合 評価	成果・課題及び具体的取り組み	担当
基礎基本の定着と活学力の育成	○学期ごとのまとめのテストで、以下の点数を各学年児童割合80パーセント以上にする。 ・85点以上（低） ・80点以上（中） ・75点以上（高） ○中津市学力状況調査で評価1の児童を半減する。	B	○自分の考えを持ち、伝え合い達成感の持てる授業の徹底。（教科の内容の習得・自己決定・自己存在感・共感的人間関係の面から）	○その授業で何を学ばせるのかという教材のねらいを毎時間きちんと持ち、板書（「めあて」「課題」「まとめ」）に表す。 ◇セルフチェックと隣接学年での見合い・確認をする。	C	B	B	○板書に「めあて」「課題」「まとめ」「ふりかえり」を位置づけることはできた。 ▲自分の考えを伝え合う場面までいけないことがあった。 ☆自分の考えが持てない子の手立て、伝え合いで発表できない子が発表するための手立て等を研修の中で共通理解する必要がある。 ☆スモールステップで取り組みが進んでいるのは良いと思うが、1時間のねらいが達成できたかどうか、どこでどのように見とっていくのか明確になると取り組みやすくなる。 ○「家庭学習ががんばり週間」の取り組みでは、9割以上の児童が提出できている。 ☆今後は家庭学習の内容や質をどう向上させていくのか課題である。	（桑原・中島・賀末） （探検・学力・情報プロジェクト）
			○家庭学習の徹底・習慣化（各学年の課題に応じて）	○家庭学習チェックをもとに、未提出児童の情報交換を行う。さらに、家庭状況も含めた提出できない原因を共通理解した上で、その改善策を探る。 ◇がんばりカードや決意カード（高）の見直しをし、振り返りの場を持つ。	B				
あいさつができる子の育成	○自己評価アンケート（児童・保護者・教職員）で「三郷小の子が先に明るくあいさつをするようになってきた」と回答した割合を80%以上にする。	B	○児童同士であいさつについての評価をさせ、児童からあいさつの輪が広がる「あいさつの木」の新しい取り組みの実施。	○児童会が主体となり「あいさつの木」の取り組みを呼びかけ、クラスの反省をして毎日木の花を塗らせる。 ○問いかけに対してきちんと返事をさせる。（はい、いいえ、ありがとう、ごめんなさい。）できていない場合はその場で言い直しをさせる。	B	B	B	○「あいさつの木」の取り組みによって、意欲的にあいさつができるようになった。 ○具体的な取り組みができていて、「あいさつ」もよくなったと思う。 ○立ち止まって、しっかり教師側もあいさつをすることに心がけた。子どもたちもそのような姿が増えてきた。 ○温度差はあると思うが保護者の「あいさつ」に対する意識は全体的に高まっている。 ○ふわふわ言葉という言葉が子どもたちからも、以前より多く聞かれるようになってきた。 ▲あいさつ運動の推進について、もっと懇談で話したいが、出入り(他学年にも行く)が多く十分できていない ☆2学期以降も継続して取り組むが、改善する内容があれば、児童会で話し合いを持ちながら全校に呼びかけていく。 ☆児童会の取り組みと連動して、学級ごとに帰りの会などで、家庭や地域でのあいさつの様子を毎日話題にする。 ☆2学期は「あいさつ広げ隊ががんばりカード」の取り組みを2回して保護者の意識をさらに高めていく。	（生活部・宮地・域山・シエクト） （河野・今井）
			○家庭と学校が連携し、大人から積極的にあいさつしたり子どもに声をかけたりすることで、あいさつ運動の推進。	OPTAと連携し、保護者によるあいさつ運動・学期に2回家庭でのあいさつ強化週間を実施する。 ◇保護者の声を集約し、取り組みの見直し・改善を行う。（懇談会などで話題にする。）	B				
			○相手の気持ちを考えた言葉遣いの習慣化。	○月に1回程度、発達段階に応じたSSTの学習を行う。 ○学級担任が帰りの会で今日の「ふわふわ言葉」をあげさせ、反省させる。 ◇担当は定期的に各クラスの様子を確認・集約する。	B				
進んで体を動かす子の育成	○体カテスト県平均を70%以上にする。 ○児童アンケートで「休み時間によく運動場や体育館で体を動かして遊んだ」と回答した割合を80%以上にする。 ○児童アンケートで「朝ごはんを毎日食べている」と回答した割合を80%以上にする。	B	○授業の始まりに学年の学習内容や発達段階に応じたサーキットトレーニングの実施。	○サーキット内容の共通理解を図り、学年の発達段階に応じた基本メニューをもとに行う。 ◇実施状況を週ごとに確認し、サーキットのための効果的な環境を整えていく。	B	B	B	○授業開始時に児童自ら、サーキットトレーニングに取り組むことができてきた。 ▲どういう運動を入れるかをもう少し話し合いしたかった。 ☆サーキットについては、低・中・高でどんなことをしているか情報交換して、発達段階に合った取り組みを推進する。 ○生活リズムを良くするために、具体的に取り組むことを考えてくれる子どもたちが増えてきた。 ○生活リズムチェック表を子どもたちに返す時の様子も聞くことができて良かった。 ▲親への協力依頼が十分でなかった。 ☆生活リズムチェック表を保護者にも見てもらい、子どもたちに声かけをしてもらえるように保健便りなどで呼びかける。 ☆熱中症予防や生活リズムの中でも特に朝ご飯と睡眠を呼びかける。	体力・健康プロジェクト （河野・今井）
			○自分ができるだけよい体調で過ごせる健康・生活リズムの習慣化。	○毎月第2週の生活リズムチェック表に引き続き取り組み、事後の指導・支援を行う。 ◇気になる子どもについて、情報交換する場を設け、事後指導を行う。	A				